

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301893		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム あいの里 壱		
所在地	郡山市片平町新蟻塚80-1		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方を常に中心とした生活スペース作りを心がけ、一人一人役割のある生活、入居者の方・スタッフ共に頼り・頼られる関係、働いている・生きている実感を感じて頂けるような生活、日々の生活に自信と喜びのある生活、入居者の方一人一人生きる力を最大限に活かせる支援・五感で感じて頂ける支援・四季を感じれる支援・喜怒哀楽のある生活を目指し、日々取り組んでいる。また、認知症専門医の協力の下、根拠のある支援に日々精進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 理念を一つひとつ掘り下げ、地域密着型サービスの意義を社長以下全職員で確認し、「利用者の方が真ん中にある介護」に心掛け、常に相手の立場に立って支援している。
2. 敬老会や日頃の散歩等の中で地域との関わりを多く持っており、ボランティアや農産物の差し入れがあり、さらには子ども達への事業所の開放を行う等、利用者と地域との関わりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一つ一つの言葉の意味を理解するため、言葉を分解し、一つ一つの言葉の意味を考え、代表からスタッフまで全員で理念を共有し、実践につなげていけるように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で検討し掲示しており、職員会議や研修でその理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々のあいさつを基本とし、つながりを深めていくように努めていると共に、年に1度の敬老会では第2部と称し、地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。	町内会に加入するとともに、事業所の催し物への招待、敬老会の開催、ボランティアの受け入れ、日頃の外出時の関わり等積極的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にボランティアの方や民生委員の方などには、素朴な疑問等には返答している。また、近く的美容院等へ行った際にもこういった症状などの説明や、実際にホームに来て頂き日常生活を見てもらう事で理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、今年度からご家族の方でも来て頂ける様に通知を行い、参加メンバーも増えており、話し合いも活発に、意見や課題点などがあつた際には、代表を中心に見直しや検討等をリーダー会議等にて話し合いを行っている。	利用者家族全員を運営推進会議メンバーとしており、多くの意見が出され活発な会議となっている。また、出された改善事項や要望等についてはその都度職員会議等を通して改善され、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回の市の相談員の方の来所や、また分からない点等あれば、電話等にて連絡し、協力を図っている。	介護サービス相談員を通して、利用者の思いや意見を汲み取ると共に、「介護サービス相談員たより」等を活用して、連携を図っている。また、分からない事があると行政へ電話等で連絡を取り、事業所の実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、身体拘束についても深くスタッフ全員で考え、身体拘束をしないケアを行っている。	虐待を含め身体拘束をしないケアについて職員採用時に教育をし、拘束のないケアに取り組んでいる。また、夜間以外は出入り口の施錠は行わず、利用者が自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修へ積極的に参加し、また、年度のホームの方針にも虐待については毎会議においても話し合い、ホーム内での防止に強く努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、必要性のある方がいないが、これからのためにもっと深く学んでいき、適切に支援できるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更点等があった際には、必ず通知し、また家族会・運営推進会議等にて説明を行い、同意書を頂き理解・納得を図っている。分からない点があれば、いつでも質問できるように連絡場所・人等を明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族要望書を作成し、意見等があった際には、記録している。また、運営推進会議等にて出た意見に対しても、反映できるように心掛けている。	日頃の支援の中から利用者本人の思いや意見を汲み取り、また、家族からは面会時等に出された意見や要望等を「ご家族要望書」に整理し、会議等で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の会議には代表・管理者共に参加しスタッフの意見を反映できるように努めている。	会議や社長が年2回行っている職員と個別面談の中で、職員の意見等を聞いて、運営に反映させている。また、管理者も随時職員の意見等を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にスタッフとの面談の場を設け、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人自体での個別研修等は規模が小規模であるため、なかなか会議時等での全体的なものになってしまうが、職場外研修へ積極的参加させ、会議等で報告を行い、スタッフ間でのケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に積極的に参加をすすめ、交流を図り相互交流にてサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、訪問調査にて本人の想いや不安等を伺い、スタッフへ報告すると共に入居されてからも入居してからの不安や想いに耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時・訪問調査時、入居後も電話連絡等を密に行い、ご家族の不安の解消に努め、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にグループホームという場を説明し、現在の症状等も伺い、必要としている事柄を見極めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、本人の出来る事を本人がやりたい・やらなくちゃという気持ちを引き出しつつ、一緒に生活共にし、時間・空間を共有する事でお互い、頼り・頼られる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時に入居者の方とご家族の方だけで会話をして頂いたり、中間に入り会話をしたり、何か会った際にはご家族の方に連絡をまめにとり、また、ホームの雰囲気も訪問しやすい環境作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に余裕がある時には、自宅へ行き草むしりをしてきたり、ご近所の方と会ってきたり、また馴染みの場所へ買い物へ出かけたりといった機会を設けるようにしている。	知人を訪ねたり、自宅へ帰宅し草むしりやお墓まいりをするなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事・行事などの時に一緒に行ったり、また、入居者の方同士の会話にあえて入らず、また、入った方が良い場合には間に入り、お互いの関係を密に出来る様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人の様子を見に行ったり、また、年賀状等も送り、ホームの様子を伝えている。また、退所されたご家族の方からも手紙等がきたりし、現在のご様子を伝えてくださる方もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の想いをなるべく尊重していき、個々人の日々の生活のあり方を考えている。また、本人の想いの把握がなかなか困難な時にはご家族の話や想いを伺い、なるべくご本人の想いに添えるように心掛けている。	日頃の支援の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、思いを発せない利用者や家族の思い・意向は、家族の面会時や運営推進会議の中から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査時に、今までの暮らしぶりを伺い、また、自宅を訪問し暮らしぶりを肌で感じ、入居後も自宅へ訪問したり、ご家族に今までの暮らしぶりを伺うなどし、今までの暮らしの継続に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康チェックやコミュニケーションなどから日々の変化に迅速に対応出来る様にスタッフ一人一人の気づきを大切にしながら現在の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議にて、話し合い意見をスタッフに出してもらい、それを元に担当者と計画作成担当が話しあい、また、ご家族の方・ご本人の声をケアプランに反映出来る様に努めている。	日頃の関わりの中から、利用者本人、家族の思いや意見を把握した上で、介護サービス計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に迅速に気付けるように一人一人記録に残していき、申し送りなどを通してスタッフ全員が情報の共有が出来る様に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームと枠に捉われない、その方にあった支援策を日々考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方一人一人の地域の大きさに合わせて、その方にあった・馴染んだ支援策を日々考えて支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの先生がいる場合には、そのまま継続し受診し、いらっしゃらない場合にはこちらの協力医の先生が往診に来て下さるので、そちらをお奨めする事もある。	本人や家族の希望により、かかりつけ医を継続している。協力医の定期的な往診や通院付き添いを家族、職員が連携し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	12月より、訪問看護ステーションとの協力体制がとれ、現在、入居者の方の日々の状態や気付きなどを訪問時や電話連絡などにより伝え、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活ぶりをくわしく説明すると共に、まめに面会に行きその都度、情報交換を行い、迅速に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	12月より、訪問看護ステーションとの協力体制がとれ、医療連携体制や重度化・看取りについてのホームの指針をご家族の方へ伝え、理解を頂いた。	重度化対応、終末期ケア対応指針を整備し、入居時に本人、家族に説明しており、事業所、かかりつけ医、訪問看護師と情報を共有しながらチームで対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方に来て頂き、一般救急法を定期的に学ぶようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、スタッフ全員が迅速かつ冷静に対応出来る様に努めている。	防犯業者に業務委託し、非常食の備蓄をしている。災害訓練は年2回行っているが、そのうち1回夜間想定火災訓練を実施している。	火災、地震、水害等に対応し、昼夜とも利用者が安全に避難できるよう、訓練回数を多くするとともに、地域の協力が得られるよう体制を整備して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の意を含めた言葉かけに努め、定期的 に会議にて議題に出し、一人一人それぞれ にあった、なおかつ尊敬の意を含めた言葉 かけを考えている。	利用者の人格や誇りを尊重した職員対応を するため「使ってはいけない言葉」や利用者 対応の仕方を、「あいの里の方向性と目標」 としてまとめ、会議や研修を通して徹底して いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の思いが気を使わず出てくるように、感 情を表に表せるような環境作りやスタッフの 対応方法を考え行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方それぞれのペース・過ごし方を なるべく尊重し希望に添えるような支援に努 めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	ご本人の好み・希望、その人らしさを大切 にし、また、ご自分で出来ない方に関しては、 本人の意向を聞きつつお手伝いを行っている。 髭剃り等もマメに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行 い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食 事が楽しいものになるような支援を行っている	ご本人の体調・気分を見極め、なるべく一緒 に行うように努めやりたくない時には無理に は誘わず、ご本人のやりたくなるような手立 てを行ってから参加を促している。	栄養士が基本献立を作成し、利用者の希望 を取り入れたメニューを作り、食材購入、下ご しらえ、準備、後片付けや野菜作り等、一人 ひとりの能力を発揮し、職員と共に行ってい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	一人一人の身体の状態を考えつつ栄養士 の資格を持ったスタッフが栄養のバランスを 考え、献立を考えている。また、水分・食事 摂取量は記録をし確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	介助が必要な方はこちらで声掛けを行い、 マメに行い、ご自分で出来る方に関しても声 掛けを行ったり、見守りをし確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りオムツを使用せず、定期的にトイレの声掛けを行い、不快感の軽減に努めている。	トイレでの排泄を促し、排泄自立に向け取り組んでおり、利用者の羞恥心に配慮した声かけ対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず下剤ではなく、乳製品・食物繊維の多い食材など取り入れ、便秘時には力める体勢にて、少し長めにトイレに座って頂いたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は特に決めず、出来る限りご本人の入りたい時間にいつでもお風呂へ入って頂くように心掛けている。	利用者の希望でいつでも入浴できる体制がある。入浴を拒む方にも職員チームで検討し誇りを損ねない対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、眠くなった時が眠る時間とし、また、日中の活動量を多く持ち、夜ぐっすり眠れるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医と話し合い、なるべく薬を多用しない支援を心がけ、必要な量等や身体の状態をマメに先生に伝え、適切な量をその時の状況に適切な服薬の支援を心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のいきがいを考え、喜びややりがいのある生活を心がけ、グループホーム内だけで留まらず、外へどんどん出かけ四季を感じて頂き、五感に働きかける支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物へ出かけ、スーパーで買い物してくる方、ご自分の行きたいところを指定され出かける方、ご自分の必要なものがある時のみ出かける方それぞれご本人の目的に沿って外へ出かけている。	散歩や買い物、外食、旅行等、職員は家族の協力を得ながら、一人ひとりの希望に沿った日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご自分で管理され、また、ご家族から預っているお小遣いをお小遣いとしてお渡しするのではなく、1ヶ月働いたお給料としてご本人へお渡ししている方もいる。それによって、お金をとても大切に感じて頂けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。また、ご家族の方がマメにお手紙を送って来られるご家族の方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の草花を飾ったり、夕方の西日が強い時には、カーテンにて調整を行っている。また、不快になるような音をなるべく出さないように心掛けている。トイレもマメに掃除し、ゴミ等もマメに回収し不快にならないように心掛けている。	季節の草花・絵画・行事写真・壁飾り・利用者作品等が共用空間に提示されている。掘りごたつを囲みテレビを見たり、談笑でき居心地良く落ちついた生活ができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には多く座れる場所や寛げる場所を設け、思い思いの過ごし方が出来る様に工夫している。やはり、寒い時期は暖かいコタツや日の当たる場所が人気が高い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使っていたなじみの家具等を持ってきて頂き、ご本人にとって居心地の良い場所作りを心掛けている。	馴染みのテレビやタンス・仏壇・アルバム・家族写真など思い思いの物を持ち込んで、その人らしく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体の状況、認知症の症状、今までの暮らしぶりを考慮しながら、出来る事や分かる事をご本人が分かりやすく、楽しく苦痛にならぬような支援を心掛けている。		